

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立海老江東小学校

令和8年3月

I 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「子どもたちが毎日学校に来たい、教職員が働きたいと思えるウェルビーイングな学校をつくる」を学校経営の重点に据え、「1 安心できる居場所であること」「2 知的好奇心が満たされていること」「3 心身ともに健康であること」を実現できるよう、運営に関する計画において、全市共通目標である【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】を中心に令和6年度までの7年間取り組んだ。その結果、以下のような成果と課題が見られた。

【安全・安心な教育の推進】

○ 令和6年度は、「心を育てる」を学校経営の重点に据え、道徳の時間を中心とした指導の工夫や「朝の会」「帰りの会」「学級活動」などでの互いのよさを認め交流しあう場の設定、児童会を中心としたあいさつ運動や異学年による集団活動の取組(スマイル班活動)など、自分や他人を大切にする感情を育成することに取り組んできた。また、いじめ対策委員会(生活指導連絡会)や校内支援会議を必要に応じて行い、事案の共通理解や見立て、役割分担などを明確にしながら、「チーム学校」として、学校全体で対応に当たってきた。これらのことにより、不登校の未然防止やいじめにつながる事案、いじめ問題の解消に成果が表れてきている。

● 課題としては、登校はしているものの、教室に入りにくい児童が複数名いることから、学級、学年だけでなく学校全体で、人権意識の向上や多様性を認めあえる学校風土の醸成に努めていく必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○ 本校では、この5年間、国語科を中心に「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「話す・書く」指導を中心に指導の工夫を全教員で行ってきた。またブロックで取り組みを進める家庭学習も継続して取り組んできた。これらの取り組みによって、小学校経年調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と最も肯定的に回答した児童の割合が、目標の50%を達成した。

○ また、3年から5年については、国語・算数・社会・理科のすべての教科で大阪市平均を上回った。さらに、経年比較においても、国語および算数の平均正答率の対市比を同一母集団において経年的に比較したとき、いずれの学年も前年度より0.1ポイント以上向上した。

● 全国学力学習状況調査における平均正答率が全国平均の7割に満たない児童の割合が増加傾向にある。今後は、個別の学力の状況に応じた指導の工夫が必要である。また、複数の資料を読み取り、根拠を明らかにしながら自分の考えを発表しあうなど、自分で課題を見つけ探究し解決する学習の機会を設定していく必要がある。

○ 新校舎建設により令和4年11月から、運動場が7m×30mの狭さとなっていたが、業間や遊放時の体育館の割り当てを決め、運動に親しめる機会や環境づくりを推進するとともに、ふだんの体育の授業でスポーツの楽しさに十分触れるような指導の工夫を行ってきたことで、「運動が好き」と回答する児童は70.5%と、目標を大幅に達成している。

● しかしながら、体力・運動能力調査では、男子は8種目中2種目で全国平均および大阪市平均を、3種目で大阪市平均を上回り、体力合計点でも大阪市平均を上回ったものの、昨年度の結果と比べて低下している。女子は8種目中全ての種目で大阪市平均・全国平均を下回った。運動場が十分に使えなかったことが、児童の体力・運動能力に大きく影響していると考えられる。

- 令和7年3月には、運動場が活用できるようになり、校庭に元気な子どもたちの声が響くようになってきた。今後は、体を十分に動かす運動の機会の設定や、友だちと交流したり協力したりする楽しさが味わえる体育授業の工夫・改善に取り組んでいく必要がある。

【学びをさせる教育環境の充実】

- 登下校時の見守り活動やあいさつ運動、伝統文化のお話、火起こし体験など、地域人材や学識経験者人材の活用を図ってきたことで、地域と連携した児童の健全育成に努めることができた。今後も、地域と連携した教育活動の推進を進めていく。
- 学習者用端末を効果的にかつ日常的に活用できるよう実践してきたことで、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の60%を超えるなど、大きな成果を上げることができた。また、「デジタルドリル活用モデル校」として、デジタルドリルの有効活用にも努めてきたが、個別最適な学びの実現に向け、さらなる取組とその検証が必要である。

中期目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

(1) 安全・安全な教育環境の実現

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

(2) 豊かな心の育成

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

(3) 誰一人取り残さない学力の向上

- 令和7年度の本市独自調査の「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する小学6年生の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査（国語）における学力に課題の見られる児童の割合を21%以下にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査（算数）における学力に課題の見られる児童の割合を22%以下にする
- 「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週1時限以上授業として取り組む。

(4) 健やかな体の育成

- 令和7年度の全国体力・運動能力等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62.6%以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

(5) 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の65%以上にする。
- 教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合（%）[本市独自調査]（基準2）を84.9%以上にする。

(6) 生涯学習の支援

- 「学校図書館貸出冊数（児童 1 人当たりの年間貸出冊数）（冊）[本市独自調査]」を 38 冊以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

(1) 安全・安全な教育環境の実現

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。（前年度：87%）

(2) 豊かな心の育成

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。（前年度：93.4%）

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

(3) 誰一人取り残さない学力の向上

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。（前年度：68.1%）
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント以上減少させる。（前年度：4 年 20.0% 5 年 20.0% 6 年 19.3%）
- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント以上減少させる。（前年度：4 年 16.4% 5 年 16.7% 6 年 15.8%）
- 「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週 1 時限以上授業として取り組む。

(4) 健やかな体の育成

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 62.6%以上にする。（前年度：62.1%）

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

(5) 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 65%以上にする。（前年度：62.2%）

(6) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合（%）を 90%以上にする。（前年度：90%）

(7) 生涯学習の支援

- 本市調査における、「学校図書館貸出冊数（児童 1 人当たりの年間貸出冊数）」を 38 冊以上にする。（前年度：25 冊）

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度も、「心を育てる」を学校経営の重点に据え、道徳の時間を中心とした指導の工夫はもとより、異学年による集団活動の取組（スマイル班活動）や、地域の人材を活用した体験的な活動など、自分や他者を大切に思い行動することや感謝する心の育成に取り組んできた。
- また、いじめ・不登校の早期対応に努めるとともに、毎月のいじめ対策委員会(生活指導連絡会)や校内支援会議を行い、事案の共通理解や見立て、役割分担などを明確にしながら、「チーム学校」として、スクールカウンセラーや区の子育て支援室等と連携しながら、学校全体で対応に当たってきた。これらにより、不登校の未然防止やいじめにつながる事案、いじめ問題の解消に成果が表れてきている。
- 課題としては、登校はしているものの教室に入りにくい児童が複数名いることから、引き続き、学級、学年だけでなく、学校全体で、人権意識の向上や多様性を認めあえる学校風土の醸成に努めていく必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 5年間の国語科の校内研究の成果をもとに、今年度より、総合的読解力育成カリキュラムを活用した「言語活動を通して総合的読解力を育成する」を研究テーマに、「大阪市総合教育センター実践校」として、より豊かな自分の考えの発信・表現ができる児童の育成をめざして研究実践に取り組んできた。その結果、校内アンケートで「自分の意見や考えをみんなに発表したり、相手に話したりすることができていますか。」について、肯定的回答が89.4%と、目標値の80%を大きく上回った。
- また、日々の「わかる」「楽しい」授業の実践や、自主学習習慣の定着に向けた取り組みなどにより、大阪市小学校学力経年調査の結果では、3年から6年の全学年において、国語・算数・社会・理科のすべての教科で大阪市平均を上回った。
- 学力に課題のある児童が増加していることが課題であったことから、2学期から毎週金曜日に40分授業を導入し、捻出した20分間を「かいとうタイム」として児童一人一人の学習の状況に応じた学びの時間としたことで、4年から6年において、国語、算数ともに、学力に課題のある児童の割合が減少しつつある。
- しかしながら、依然として学力に課題のある児童が少ないことから、引き続き児童一人一人の学習の状況に応じた学びの充実に努めていく必要がある。
- 今年度から通常通り運動場が活用できるようになった。体育の授業では、児童が目標を意識し、「できた」「わかった」を味わえるような授業改善を行ってきたことで、「運動が好き」と回答する児童は、71.1%と目標を達成するとともに、全国体力・運動能力等調査では、男子は男子は8種目中4種目で、女子は女子は8種目中6種目で大阪市平均・全国平均上回った。今後は、握力や長座体前屈などの筋力や柔軟性を高める運動の工夫について取り組んでいく。

【学びをさせる教育環境の充実】

- 学習者用端末を効果的にかつ日常的に授業等で活用できるよう、研修や啓発に努めたことで、授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の77.4%を超えるなど、大きな成果を上げることができた。
- 一方で、長時間の活用などにより依存気味になっている児童もいる。日常的な活用が進むからこそ、情報モラル学習など、自律的に活用できる力の育成が今後の課題である。
- 図書館支援員による休み時間の図書室開放や低学年への読み聞かせなどにより、多くの本に触れる機会を創出できた。今後も引き続き、本を読みたいと思えるような取組を進めていく。

大阪市立海老江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標			達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 (1) 安全・安全な教育環境の実現 ▶ 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。(前年度:87%→今年度:87.4%) (2) 豊かな心の育成 ▶ 令和7年度の小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。(前年度:93.4%→今年度:98.7%)			B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容	指標	目標値	評価
【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・ いじめアンケートを(5月、7月、11月、2月)に行い、いじめ対策委員会を中心に校内の状況を全教職員で点検し共通理解するとともに、いじめと認められる事象について迅速かつ組織的に対応する。	・ 令和7年度末の4回のいじめアンケートで、学校で認知したいじめの解消した割合(今年度:100%)	100%	B
【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・ 体験的な活動の充実を図るとともに、様々な学習において地域人材を活用して、地域との連携をさらに深める。	・ 令和7年度末の学校アンケート(児童)で、「体験が勉強になった(できた。わかった。楽しかった)と思う」の肯定的な回答の割合(今年度:95%)	96%	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析			
【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ○ 年4回のいじめアンケートや月1回のいじめ対策委員会を計画的に実施できた。いじめアンケートで認知できた件数は、5月は35件、7月は46件、11月は51件、2月は35件と減少した。アンケートをもとにして事実確認を行い、各学級担任や学年団、支援担当者等で丁寧な聞き取りと話し合いを行い対応している。また、各児童用端末から毎日の入力を行っている「心の天気」を活用し、児童の訴えを教師が早期発見し、児童の気持ちに寄り添い解決できる事案もあった。一時的なトラブルに関しては、その都度聞き取り対応をしている。また、経過観察が必要な児童については、学年団やいじめ対策委員会においてケース会議を行い、その後に全職員で共通理解を図っている。			
【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○ 定期的な外国語活動や社会見学、出前授業、スポーツ体験など各教科と関連づけた体験活動を各学年行えた。			

次年度への改善点

【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

- アンケートでの数値は達成できているが、実態とに差があるように感じる。トラブルが起きた時や「心の天気」で確認した際は、今後も丁寧に聞き取りを行っていくようにする。相手の気持ちを理解した上で行動をとることが難しい児童もいるので、その都度相手の立場に立って物事を考えられるよう指導をする。また、日頃から児童とよく話をして児童理解に努め、休み時間の見守りや相談できる環境づくりを行う。

【基本的な方向2 豊かな心の育成】

- 地域とのつながりを深め、今後も学習と関連づけた体験学習を取捨選択して行うようにする。

大阪市立海老江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標			達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>(4) 誰一人取り残さない学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(前年度：68.1%) ➤ 令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上減少させる。(前年度：4年 20.0% 5年 20.0% 6年 19.3% 今年度：4年 20.3% 5年 21.7% 6年 16.1%) ➤ 令和7年度の小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント以上減少させる。(前年度：4年 16.4% 5年 16.7% 6年 15.8%) 今年度：4年 18.9% 5年 10.4% 6年 14.5%) ➤ 「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週1時限以上授業として取り組む。 <p>(5) 健やかな体の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を62.6%以上にする。(前年度：62.1% 今年度：71.1%) 			B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容	指標	目標値	評価
<p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】（読解力育成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週1時限以上授業として取り組み、自分の考えを整理し、さまざまに表現する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度の校内アンケートにおける「自分の考えを整理し、表現できるようになったと思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合 (今年度：89.4%) 	80%	A

<p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(国語・算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業や短時間学習(モジュール)において、個別最適な学習ができるような取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査における学力に課題の見られる児童の割合(%) (国語・算数) ※年度目標欄参照 	<p>(前年度より) -1%</p>	<p>B</p>
<p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対し、既習内容や実体験をもとに予想を立て、実験や観察を進めていくことで、より理科を身近に感じることができるよう工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 (今年度:86.6%) 	<p>80%</p>	<p>A</p>
<p>【基本的な方向5 健やかな体の育成】(体育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育授業で運動の楽しさ(特性)に十分触れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の学校アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合(今年度:71.1%) 	<p>70%</p>	<p>A</p>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

<p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(読解力育成)</p> <p>○ 肯定的に回答する児童の割合は、全校平均で89.4%で目標値を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で自分の考えを発表する機会を意識して取り入れたことで、抵抗感が少なくなったと考えられる。また、ハンドサインやペアトーク、ICTを活用するなど考えの表現方法を指導者側で工夫することにより、児童も問題や課題に対して興味関心をもって取り組むことができるようになってきている。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(国語・算数)</p> <p>○ 令和7年度の小学校学力経年調査における学力に課題の見られる児童の割合(%) (国語・算数)は、国語では減少した学年が3学年のうち1学年に留まったが、算数では2学年で減少させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水曜日のモジュールタイムと金曜日の「かいとうタイム」を活用し、学習に課題のある児童に対して定期的なアプローチを行うための機会を確保できた。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科)</p> <p>○ 肯定的に回答する児童の割合は、86.6%となり目標値を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で、問題→予想→実験・体験→結果→考察→まとめのサイクルを意識して授業を展開することで、自分の考えをもった状態で授業に参加することができ、理科学習への意欲が高まった。 <p>【基本的な方向5 健やかな体の育成】(体育)</p> <p>○ 令和7年度の学校アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答した児童の割合は71.1%となり、目標値を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年は運動場までの距離が遠いため数値が低くなる傾向にあるが、体育の時間やかけあし週間などの取組もあり、運動への肯定感は維持できたといえる。

次年度への改善点

<p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(読解力育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもって表現できるようになったことで、学習に前向きに取り組めるようになった児童もいる。次年度は、より問題や課題に対して興味関心をもって取り組むことができるよう、自分事として考えやすい課題設定や興味をもちやすい学習展開の計画などに取り組みたい。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(国語・算数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度もモジュールタイムや「かいとうタイム」を活用し、児童の実態に応じた取組を継続する。また、定期的に学力向上推進委員会を開催し、成果の情報共有と今後の課題や方針の検討を随時行っていく。 <p>【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】(理科)</p> <p>【基本的な方向5 健やかな体の育成】(体育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も理科や体育に親しみ、活動できるような授業展開や出前授業などの取組を継続していく。
--

大阪市立海老江東小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標			
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>(6) 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進</p> <p>➤ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の65%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く](前年度:62.2% 今年度:77.4%)</p> <p>(7) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <p>➤ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合(%)を90%以上にする。 (前年度:90% 今年度100%)</p> <p>(8) 生涯学習の支援</p> <p>➤ 「学校図書館貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)(冊)[本市独自調査]」を38冊以上にする。(前年度:25冊 今年度:37冊以上(1月現在))</p>			A
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容	指標	目標値	評価
<p>【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材の短時間学習や教科等での活用や日々の「心の天気」の活用、月1回以上の家庭学習の推進をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した年間授業日の割合 (今年度 77.4%) 	65%以上	A
<p>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回のゆとりの日や月1回の定時退勤 	<ul style="list-style-type: none"> 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の 	90%以上	A

<p>デーの設定、学期に1回の校内環境改善に関する話し合いの機会を設けるなど行い、働きやすい環境体制をつくる。</p>	<p>勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合 (今年度100%)</p>		
<p>【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一度に貸し出している本の冊数を増やしたり、教科学習での活用を学期に1回程度行ったりして多くの本に触れる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数) (今年度37冊以上(1月現在)) 	<p>38冊以上</p>	<p>A</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>			
<p>【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>○ 指標に対する数値は77.4%と目標値を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間評価から「心の天気」の入力を各学級で工夫(朝入力する・副担任も確認する等)し、入力漏れがないようにした。 navimaを中心とした学習アプリやタイピング練習アプリ、Canva、調べ学習、思考ツールの活用など学年の実態に応じて学習者用端末を有効的に活用できている。また、月1回以上の家庭学習も計画的に実施できており、冬休みの宿題でもnavimaを活用した。 学習支援(ツール)として有効的に活用できている一方で、長時間の使用になり、端末を手放せず依存気味になっている児童もいる。 <p>【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ 指標に対する数値は100%で目標値を達成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回のゆとりの日や月1回の定時退勤Dayの設定、学期に1回の校内環境改善に関する話し合いの機会を設けるなど働きやすい環境や体制をつくることはできた。中間評価全体会で見直した、定時退勤Dayの放課後開放をなくす取組も計画的に行うことができた。 指標を達成しているものの、持ち帰り業務があった。 <p>【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <p>○ 指標に対する数値は1月時点で37.0冊/人なので、今年度中には数値を上回る見込みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一度に貸し出している冊数を増やした。また、図書館支援員による休み時間の図書室開放のお知らせ放送を行ったり、低学年への読み聞かせやクイズを行ったりしたことで、多くの本に触れる機会を増やすことができた。しかし、学年によりばらつきは大きい。 特に高学年は毎週図書室に行く時間を確保することが難しく、また、ページ数(内容量)の多い本を読んだり家庭から持ってきた本を読んだりしているため、毎週異なる本を借りることが難しい現状がある。 			
<p>次年度への改善点</p>			
<p>【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「心の天気」の入力は日々入力漏れの児童がないように確認するとともに、心の変化の早期発見に引き続き努めたい。 Chromebookになり家庭への持ち帰り頻度が増えたため、端末活用の機会が今以上に増える見込みがある。端末の依存や書く力の低下などに繋がらないよう有効的な活用を模索していくとともに、端末の使い方(使用方法や使用時間)や情報モラルの指導も計画的に取り入れていく必要がある。 			

【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・ 今後も校内環境改善に関する話し合いの場を設けたり、教育課程（行事や研修等）を例年通りではなく担当者が必ず見直したりするようにする。家庭での持ち帰り業務が減るようにSSSやWLBの活用の幅を広げていきたい。また、校務分掌を各主任や各部長1人だけで担うのではなく、副主任や同じ部のメンバーとともに分担して行えるような体制を構築していく必要がある。

【基本的な方向8 生涯学習の支援】

- ・ 学校図書館や福島図書館の利用、授業中の図書の時間の確保、朝の読書タイムの取組などを行い、多くの本に触れる機会を増やすようにする。
- ・ 図書館にある本の紹介やブックトーク、ビブリオバトル、アニメーションなど、本を読みたいと思えるような取組も考えていく必要がある。

令和 8年度 学校関係者評価報告書

大阪市立海老江東小学校 学校協議会

1 総括についての評価

・学校改革を実施している様子が見て取れた。その中で、児童の学力等に関する結果も出ていることがわかった。

2 年度目標ごとの評価

➤ 年度目標：「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に肯定的回答の児童の割合を90%以上にする。

・児童数が増えていることで、しんどい児童の数も増えてきていると思う。遅い時間でもいいから、違う教室にでもいいから、まずは学校に来てほしい。
・中学でも「ほっとルーム」にこられるようになった不登校児童が見られた。しかし、ゆくゆく教室への復帰をめざしたい。

➤ 年度目標：「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に最も肯定的に回答する児童の割合を62.2%以上にする。

・昨年度はシャトルランが頭一つ低かったが、運動場が使えるようになって復調したように見えた。
・シャトルランの結果が上昇したことは分かったが、同時に本を読む児童も育てようとしているのはすごいと感じた。

➤ 年度目標：教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合（%）を90%以上にする。

・教員のなり手が減っていると聞く。働き方も変えていかなければならない。
・長時間労働も蔓延していると聞く。定時で帰ればよいと思うが、それができないだろうか。

3 今後の学校園の運営についての意見

・登下校の見守りをしている。登校時はよいが、下校時は本当に行儀が悪い。いつ事故がおきるかひやひやしている。→ 指導は行っているものの、下校時は開放的な気分になるからか、なかなか指導が入らない。今後指導を継続するとともに、下校時の様子を見るようにする。
・成果を出し続けることは難しいと思うが、今後も取り組みを続けていただきたい。

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・衝動的な行動の裏にある児童の思いを、担任をはじめ支援者がしっかりと聞くとともに、保護者と、児童の状況や今後の支援等について連絡を密に行い、連携して児童の指導・支援にあたったことで、暴力行為の研修は0件であった。
②いじめの状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートで認知できた件数は、5月は35件、7月は46件、11月は51件、2月は35件であった。 ・すべての事案について事実確認を行い、各学級担任や学年団、支援担当者等で丁寧な聞き取りと話し合いを行い対応してきた結果、一部を除き、年度末までに解消したと認められる。 ・経過観察が必要な児童については、学年団やいじめ対策委員会においてケース会議を行い、共通理解をしながら対応を進めている。
③小・中・義務教育学校における不登校の状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席が3日続いた時点で、学級担任と管理職とで児童本人や保護者の思いを大切にしながら早期対応に努めた。 ・また、学年を中心にケース会議を行い、保護者、カウンセラー、区役所子育て支援室等と連携し、支援方針と役割分担を明確にしながら対応してきた。 ・さらに、3学期からは、校内スペシャルサポートルーム「ほっとルーム」を開設し、児童の状況に応じた居場所づくりに努めた。 ・これらの取り組みの結果、登校できるようになった児童や教室に入れるようになった児童もいる。 ・しかしながら、不登校の状況にある児童は6名と昨年度に比べて増加した。